

第 I 章 調査の目的および概要

1. 調査の背景および目的

練馬区は東京 23 区内の中でも数多くの自然を有する区のひとつである。かつては、区内各地でも雑木林、農地、屋敷林など武蔵野の面影を残した風景が見られたが、段々と都市化の波が押し寄せている。それにともない生息する生物種も刻々と変化していると予想され、生息する生物種だけでなく、それらを構成する生態系全体を把握する必要がある。

また、この調査で現状の自然の実態を把握するだけでなく、区民が自主的に自然に対する学習の啓発を行い、今後、区民と協働で進める自然環境および環境保全施策の基礎を構築するものである。

以上のことを踏まえ、本調査の目的を以下にまとめる

- (1) 練馬区における各地域の生態系の実態を明らかにし、練馬区における自然度を表す「環境指標」としていく。
- (2) 調査結果およびその成果としての「環境指標」を環境施策の策定および河川整備などの事業の実施に活用する。
- (3) 調査結果の普及および調査への区民参加により、生態系や自然への区民の関心を高め、自然環境の保全等に係わる意識啓発を図る。

2. 調査の全体像

本調査は、平成 18～19 年度で専門家や区民委員を含めて計画を行い、平成 20～22 年度で調査の実施、平成 21～23 年度にかけて区民への啓発活動として自然観察会を行った。平成 21 年度には区民アンケート調査実施前に専門家や区民委員による検討会を行った。本事業全体の実施状況を表 I-1-1 に示した。検討会および自然観察会については巻末の資料-1～2 に示した。

調査は、前述までのように、専門家による「生物実態調査（第IV章）」と、区民による「区民アンケート調査（第V章）」の二つの調査により構成されている。

この2つの調査の結果から、「種」および「環境類型」での評価を行い、今後、区内の生物に関わる基礎的資料として活用されることを目的とする。

表 I-1-1 事業全体のスケジュール

	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
事前検討会		■■■■■				
生物実態調査			■■■■■ 調査地選定	■■■■■ 調査		
区民アンケート調査				■■■■■ 検討会	■■■■■ 調査	
自然観察会				■■■■■	■■■■■	■■■■■
調査結果集計、まとめ						■■■■■

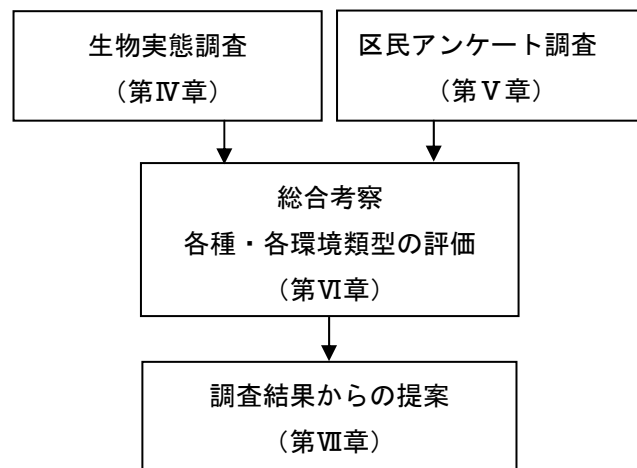


図 I - 1 - 1 調査の全体像